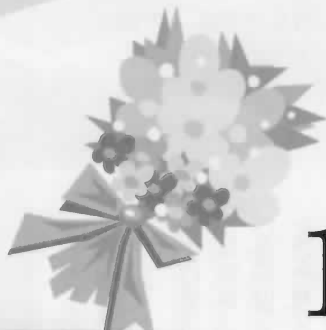


ごみを減らそう!!



祝! 10周年



交流会では和気あいあいとごみ談義



来賓を迎え、輝かしく記念式典



挨拶する高月会長。来賓として上原副市長らを迎える



乾杯のために注がれたリユースマークを表示した日本酒について遠藤さんが解説

CONTENTS

- ◆特集 1 _____ ②
「祇園祭 ごみの山への挑戦」
- ◆特集 2 _____ ④
リユースびん流通システムー京都モデル
- ◆NEWS _____ ⑥
平成18年通常総会開催 ほか
- ◆行政からのお知らせ _____ ⑧
「生ごみ処理機」及び「生ごみコンポスト容器」の購入助成について
- ◆Report _____ ⑨
北海道イトムカ鉱業所を見学
- ◆会員探訪 _____ ⑩
日本紙業有限会社
- ◆Series 「やっています。わたしの住む町で、ごみ減らし」 _____ ⑪ ⑫
大宮地域ごみ減量推進会議（北区）
上高野地域ごみ減量推進会議（左京区）
納所地域ごみ減量推進会議（伏見区）
紫野学区地域ごみ減量推進会議（北区）



ホテルから出た野菜の切れ端で作ったスープがメニューに

市民・企業・行政のパートナーシップでごみを減らそうと1996年（平成8年）11月スタートした、京都市ごみ減量推進会議は今年で10周年を迎える。当初、114団体だった会員は、304会員（06年10月現在）になり、活動も年を重ねるごとに活発化してきた。9月16日10周年を祝し記念式典・交流会が開かれ（会場：京都国際ホテル）、参加した150名は、ごみ減量活動への意志を高めあった。年内には、10周年を記念する冊子を発刊する予定だ。10年といえば、人間なら小学4年生。これを一つの節目に、循環型社会に寄与できるよう多彩な活動を広げたい。

あふれたごみ箱と祇園祭の風景



「コンコンチキチン、コンチキチン」—お囃子が鳴り響く7月中旬、京都が世界に誇る祭り、祇園祭が一つのクライマックスを迎える。山鉾巡行が行われる17日前の3日間、各山鉾町には山鉾が飾られ、所狭しと立ち並ぶ露店が祭りのムードを盛り上げる。そんな祇園祭を一日見ようと、毎年、全国から大勢の観光客が訪れる。まさに日本三大祭の一つにふさわしい賑わいがそこにはある。しかし、祇園祭が最も盛り上がるこの期間に、知られざる山が出現し、人知れず姿を消しているのをご存知だろうか？今年、その山に立ち向かう、新たな取り組みが始まった。

「祇園祭ごみの山への山への挑戦」

京都大学大学院都市環境工学専攻 野村直史

◆深夜に出現する、もう一つの山

歩行者天国の時間も終わり、人も少なくなった深夜、姿を現すもう一つの山。それは、ごみの山である。宵山に訪れ、あふれかえったごみ箱が気になったことがある人も多いと思うが、改めて見ると、その姿はあまりにも強烈である。あふれかえったごみ箱に、無理やり押し込まれたごみ。道に散乱しているごみ。深夜にそれらは集められ、文字通りのごみの山となる。山鉾が動く美術館とたたえられる、美しい祭りの姿からは想像も付かない光景だ。

もちろん、こうしたごみに対して何の対策も取られてこなかったわけではない。16年前、(財)祇園祭山鉾連合会が提唱し、「祇園祭グリーンキャンペーン」が始まった。企業の協賛を得て、段ボールのごみ箱を設置し、ごみの散乱を防いでいる。今年、使われたごみ箱は11500個。3日間で集められたごみは5万7660キログラムに上る。毎日2万キログラム近いごみが出た計算だ。この膨大なごみの量にもかかわらず、祭がスムーズに進行しているのは、ごみ箱を設置し、ごみ袋の交換や集積、掃除などを行っている各山鉾町の人たち、さらには宵山の深夜に清掃活動に取り組む学生有志など、ごみと向かい合い、祭りを懸命に支えている人々がいるからだ。しかし、



鉾のすぐ横はごみの山!!

そうした支えに頼るばかりではなく、ごみ捨てマナーを向上させたり、ごみそのものを減らしたりしていく必要もありそうだ。

◆ごみ山への挑戦

「市民として何かできることは…」今年、市民団体(京都環境アクションネットワーク)が関係諸団体に声をかけ、祇園祭のごみ問題に取り組んだ。「京都議定書誕生の地である京都の祭りとして、祇園祭をより美しい姿で伝えたい。」そんな思いで始めたごみ山への挑

戦。決して簡単ではなかった。長い歴史と伝統を有し、非常に規模が大きな祭りであるだけに、携わる人、組織も多く、それぞれの係わり合いも複雑である。また、祭りを維持するだけでも相当な人手が必要な中であって、ごみ対策にさらに人手を割く余裕があるわけでもない。そして、膨大なごみの量。一体、どこから手をつけてよいかわからなかった。

それでも、山鉾連合会や関係団体を少しずつまわって説明していくと、祇園祭のごみに問題意識を持っていた人も多く、一つの山町を中心に協力が得られることになった。準備期間が短かったこともあり、関係団体の調整や人員確保の面では苦労も多かったが、祭のごみ減量・再資源化の可能性を探る第一歩として、ごみの分別回収と分類調査が実施できる運びとなった。



バス停で待つごみ

◆ごみの分別回収

「分別回収にご協力ください。」「白色電灯で明るく照らされた姿が印象的なリサイクルブース(分別回収拠点)では、呼びかけに応じて多くの人が分別回収に協力していった。分別は、①缶・びん・ペットボトル、②紙類・その他、③トレイ・プラスチック容器、④串・箸、⑤飲み残しの5つ。回収拠点は、全部で7箇所。ほとんどのものがきれいに分別回収でき、プラスチックごみは、一箇所ですべて200リットルのごみ袋3つ分ほどが集まったという。」「分別してくださった方に「ありがとうございます」と声をかけた時、「ご苦勞様です」と声が返ってきた、それが嬉しかった」と参加したスタッフ。出す方とスタッフ、祇園祭のごみに対して共通の問題意識を持っていた。



リサイクルブース

◆祇園祭のごみの中身

祇園祭のごみの中身はどんなものなのか。宵山の最中、調査のために集められたごみは1790リットル、重さ約1000キログラム。分類調査は、山鉾巡行の日、京都市南部グリーンセンターで行われた。

露店でよく使われるトレイやバック、カップといった食品容器が占める割合が高く、ペットボトルなどの飲料容器もあわせると体積で7割、重量で4割にもなった。今年、特に目立ったのは、カラフルなプラスチック製のかき氷容器で、体積にして100リットルほど。こうした容器は、ほんの一瞬しかその役目を果たすことなく捨てられていると考えられ、まさに使い捨ての最たる姿と言えそうだ。他にもビニール製の傘が使い捨てされていたケースや、うちわがほとんど使われることなく捨てられているケースなど、様々な物が安易に捨てられている状況がうかがえた。

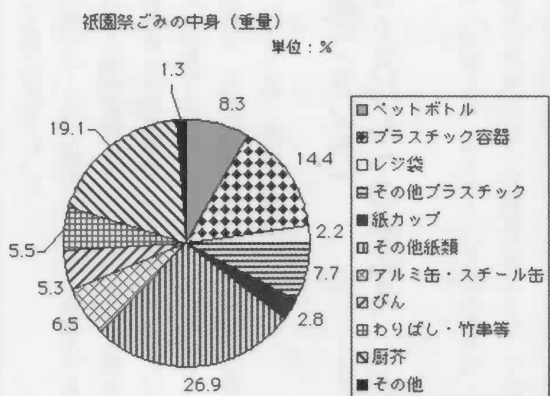
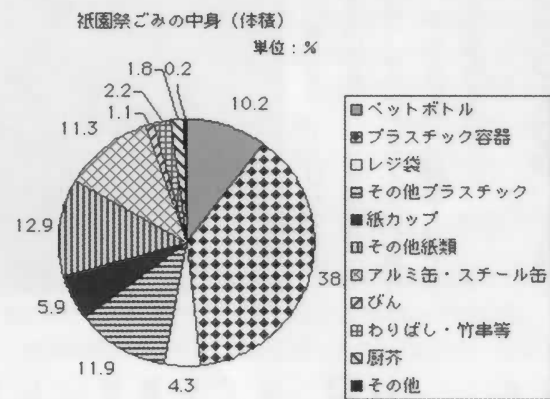
◆より美しい祭りを目指して

予想された結果ではあったが、容器類のごみに占める割合は高かった。今後、祭のごみ減量を図るためには、こうした容器のごみになるのをいかに防ぐかがポイントとなる。また一方で、呼びかけに応じて、分別回収に協力してくれる人も多く、呼びかけ次第で分別回収の推進やごみ捨てマナーの向上などの余地はありそうだ。今回の取り組みを中心的に進めた松井敏喜さんは「祇園祭のごみを減らすために、これからどんなことができるかはまだまだ検討中です。けれども、今回の取り組みを通し、来場者の方々も祇園祭を作っている一員なのだ」と強く感じました。今後、来場

者の方々も含め、祭りを作っていってほしい。皆さんからのご協力をいただきながら、散乱ごみ、そしてごみそのものを減らしていく方法を共に考え、実行していきたいです。」と語った。

平安時代前期、京都に蔓延した疫病を取り払うために始まったとされる祇園祭。応仁の乱で一時中断されたものの、町衆が力を合わせて今日まで受け継いできた。祭りの楽しみ方は様々。しかし、時を超えて受け継がれてきた人々の思い、そして祭りを残して帰ってしまふのではあまりにも悲しい。祇園祭のごみ減量の取り組みが、来場者に「自分たちも祇園祭という美しい祭りを作っているのだ」という意識を持たせるきっかけになれば、祭りはますます魅力的なものになるに違いない。

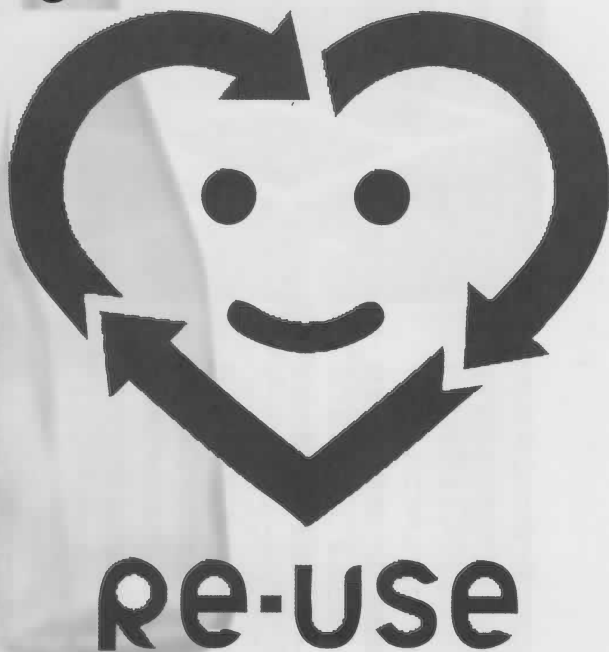
◆分類調査結果



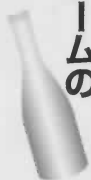
分類調査風景

一京都モデル

このマークが目印です!



リユースびん検討チームの立ち上げ



発端は、98年秋の「ごみフェスタ」(主催…京都市ごみ減量推進会議)に遡る。リユースびんの活用を願っていた遠藤明子さん、大西啓子さん(使い捨て時代を考える会、環境カウンセラーズ京都)は、実行委

日本酒、醤油、酢…、かつて日本で活用されていた、一升びんなどの共通規格のびん容器。びんは回収され、洗ってくり返し使われていた。しかし、時代とともに紙パックやペットボトルが台頭し、リユース(再利用)という仕組みは崩壊の道へ。このままにしておけないと、リユースびん再使用システムの再構築を探ってきた環境活動が、この秋、確かな実りを届けてくれた。

員として参画したこの催しでリユースびんの激減に危機感を持っていた吉川康彦さん(京都硝子びん問屋協同組合)らと出会う。すぐにリユースびん検討チームを立ち上げ、2年後には、共同購入主体での共通規格リユースびんの活用を実現した。



発表会で司会を務める遠藤明子さん

回収拠点マップづくりや調査を実施



現代では、リユースびんの代表格である一升びんと七升びんですら再使用されない。リユースびん検討チームは、京都市ごみ減量推進会議の事業として03年回収拠点マップづくりに乗り出す。京都市の行政区別にリユースに協力する酒販店を網羅した地図を作製する。さらに、京(みやこ)エコロジーセンター「環境都市づくり推進のための社会実験支援事業」の支援を受け、調査を行う。1つはびんの排出状況、2つ目がリサイクル

コストについて。リユースされないびんは、資源として回収され、リサイクルされるが、その費用はいくらかかるのか、人件費なども含め試算し、リユースの経済性への認識を深めた。

3つ目が、びんの使用



缶とびんとの環境負荷について講演する高月会長

「京都ブランド」リユースびんへの手応え



者である京都市内の酒、酢などの製造メーカー85社を対象にした調査。リユースびん利用拡大の意向の有無に関して聞き取りを行った。

翌04年リユースびん検討チームは、京都市ごみ減量推進会議の組織変更に伴い、リユースびん事業化活動小委員会に名称を改め、びん再使用システムづくりに向け、活動を活性化させてゆく。回収拠点マップづくりの更新、前年の調査を「京都市の資源ごみ費用算出」としてまとめ、発表するなどした。

04年に実施した、ボトル(びん詰め酒飲料・酢などの製造販売業)85社への調査結果により、その内29社にリユースびん導入に関するヒアリング調査を実施。その結果、共通規格のリユースびん導入の可能性をつかむ。対策として、リユースマークの明示、びんを安全に回収し、流通するためのP箱の必要性、取扱店の拡大や京都市内の地域組織によるリユースびん購入の呼びかけなどが浮かび上がった。

リユースびん流通システムは、リユースという生活行動に共感し、購入する消費者があつてこそ成り立つ。05年度は「リユースびんを広めようプロジェクト」を立ち上げ、「リユースびんサポーター」を募集し、広く理解を促した。また、10月には、リユースびんに関



発表会で発言する樋銅裕明さん(京都府酒販組合連合会)

買って支えよう！ リユースびん流通システム

わる醤油、酢、酒のメーカー、洗びん業者、小売に
関わる酒販組合、行政、市民が集まり「リユースび
ん採用に関する懇談会」が行われた。活発な議論が
交わされた中で、リユースマークのシールを貼ると
いう現実的な意見が多く賛同を得た。

共通のリユースマークの使用へ

06年3月、リユースマークの使用による流通シス
テムを本格化させようと、メーカー、洗びん業者、
小売店が集まり、懇親会を開く。このリユースマー
クは、イベント時にリユース食器を使おうと活動す
る、NPO法人地球環境デザイン研究所エコトーン
が作成し、利用を促進しているもの。リユースとい
う共通点から、ともに使用することになった。

リユースマーク表示商品誕生！ 発表会でお披露目

06年7月21日、「動き始めるリユースびん流通
システム—京都モデル」発表会。リユースびん事業
化活動小委員会のメンバーにとって忘れられない日
となったであろう。

当日は、リユースびん事業化活動小委員会のメン
バーや支援してきた京エコロジーセンターからの報
告があり、いよいよリユースマーク表示商品の発表
となった。並べられたリユースマークを付けたびん。
「見て！これがリユースびんよ」とでもいいたげな醬
油、酢、酒……。いずれも誇らしげな表情を見せていた。
発表会は、京都市ごみ減量推進会議高月紘会長の
講演で締めくくられた。高月会長は、ごみ減量、
環境負荷の低減においての意義があり、市民・事業
者・行政のパートナーシップでここまで漕ぎつけた
活動を評価した。

地場産業活性化にも効果

この9月、リユースマーク表示商品は店頭にも並ぶ。
地元メーカーによるリユースマーク表示商品の発売
の意義は、環境への貢献ばかりではない。京都には
醤油・酢などの調味料、日本酒のメーカーが少なく
ない。洗びん業者も営業を営んでいる。また、京都
議定書が締結された地でもある。「リユースびんによ
る商品流通は、京都の地場産業の振興という意義も
併せ持つ」と、当初から活動の中心的存在であった、
遠藤明子さん。この一言に京都モデル構築への遠藤
さんの並々ならぬ熱意がこもっていた。リユースマ
ーク表示商品が大手スーパーや多くの店舗にも並ぶ
日は、そう遠くないと期待して、リユースマーク表
示商品を購入しよう。それが何よりの支援になるの
だから、皆さん、買いに行きましょうね。

森田知都子(京都市ごみ減量推進会議副会長、HP小委員会幹事)
取材・写真協力：佐藤明子



店頭に並んだリユースマーク表示商品(松野醤油にて)

リユースマーク表示商品 (2006年9月現在)

- 松野醤油(株)／松野醤油 柚子ほんず・つゆ・さしみ醬油・こいくち醬油・うすくち醬油
- (有)林孝太郎造酢／京あまみ 米酢・黒酢・京風すし酢・味付けすだちぼん酢
- 藤岡酒造(株)／蒼空 純米大吟醸・蒼空 純米吟醸・蒼空 純米酒
- (株)北川本家／吟醸酒冷やがよい・純米山田錦・純米大吟醸地酒マイスター
- (株)澤井醤油本店／丸大豆二度熟成濃口しょうゆ・京淡口しょうゆ
- (株)増田徳兵衛商店／月の桂 大極上中汲・にごり酒
- 招徳酒造(株)／招徳 冷やして本醸造



リユースマークの商品いろいろ。紹介する後藤美咲さん(京都リユース協議会準備会事務局)

平成18年への期待と ともに通常総会開催

6月2日午後、平安会館にて通常総会が開催され、平成17年度事業報告・収支決算報告が承認された。引き続き、平成18年度事業計画・収支予算について審議され、賛成多数で承認された。また、その後リユースびん事業化活動小委員会幹事遠藤明子氏により事例発表が行われた。4年目にあたるリユースびん回収マップについて、調査を経て、この9月共通びんによる商品販売の道が拓けたとの報告があった。



大学構内でこどもワークショップ 「まんがをかいてごみをへらすとう」開催

8月15日（午前10～12時）
京都大学百周年時計台記念館2階会議室

漫画家ハイムーン氏を講師に迎え、毎夏開いてきたこどもワークショップ。今年も、「びつくり！エコ100選」と連携で開くことに。第6回目とあって、ハイムーン先生も企画をひとひねり、手作りの紙芝居を見せながら、ごみや環境について楽しく説明された。親子はもちろん、大人の参加者もあり、和気あいあいとしたムードの中、幕を閉じた。なお、この日子どもたちが描いたまんがが、京エコロジーセンターロビーにて公開された。



キティちゃんマーク入りの買い物袋で キャンペーンを展開10月1日～31日

3R推進月間の10月は、例年15政令指定都市と東京都23区において減量化・資源化共同キャンペーンが展開される。18年度は、おなじみハローキティがポスターやバッグに登場。「こんなにあるよ、できることみんなですすめようエコライフ」をキャッチコピーに多くの市民にごみの発生抑制、再使用、再生利用の呼びかけが行われる。

京都市ごみ減量推進会議では、普及啓発実行委員会の事業として取り組んできた。今年もキャンペーンとして展開し、10月13日ごみ減量啓発パネル展示やクイズ・アン

ケートなど、啓発活動を行った（カナート洛北地下1階にて）。この日は参加協力者にはキティちゃんマーク入りのバッグが進呈された。



暑さにめげず 「見て聞いてごみ対策 ミニツアー」へ

7月12日午後、総合的なリサイクルを行う安田産業（株）にて空き缶再資源化システム、RPF固形燃料化システムなどの資源化の過程を見学した。8月22日午後はローム（株）へ。環境保全活動と廃棄物再資源化対策について解説を受け、工場内や社内の一角に設けられた資源置き場などを周り、75品目に及ぶ資源化について紹介を受けた。猛暑の中の見学、参加者の皆様お疲れさまでした。



安田産業ではリサイクル現場を見学



ロームでは、徹底した廃棄物対策を学ぶ

容器包装リサイクルや3Rをテーマに、ごみ減量実践講座開催

2000年よりスタートして以来、ごみ減量実践講座では、その時の話題をテーマに講座を開いてきた。今年の第1回目のテーマは、「容器包装リサイクル法改正について」。経済産業省の容器包装・リサイクル小委員会の座長でもあり、この分野の第一人者として知られる郡篤孝氏（同志社大学教授）の基調講演とパネルディスカッションというプログラムで開催した（8月2日）。容り法の中で、今回はとくにレジ袋有料に焦点をあて、議論を行った。会場となった京工

コロジセンター1階シアターには、90名が集い、パネリストによる討論の後は会場からの発言も活発に行われた。

第2回は、「3Rの輪を広げよう」という題目で、環境省より大熊一寛氏（廃棄物・リサイクル対策部企画課）を講師に迎え、開講した。国際的な資源循環や地域に動きなどについての講演が行われ、その後、活動報告が行われた。日本写真印刷麻埜豊彦氏が効率的なゼロエミッションの実現の業績を披露。引き続き、コンシューマーズ京都原強氏が、蛍光管リサイクルのモ

デル実施の結果を紹介した。第3回は、12月6日午後、「産廃コネクション」などの著書で知られる石渡正佳氏を招き、「Gメンが語る産業廃棄物の現実」をテーマに開講する予定だ。



第2回講座、左より原氏、麻埜氏、大熊氏



第1回講座、左より郡篤氏、上山氏、山内氏

西京区でごみ有料化の説明会

10月から始まるごみの有料化。市民の理解を得るため、広報活動が活発に行われている。そんな中、地域ごみ減量推進会議においても有料化への理解を深めておこうと、西京区で説明会が開かれた（6月30日・西京区洛西支所）。呼びかけたのは、原田昭治桂川地域ごみ減量推進会議会長。西京区9つの地域ごみ減の会長が参加し、西京まち美化事務所長の説明の後、有料化のビネオ鑑賞や駆けつけた南担当課長からはコミニティ回収や生ごみ処理機への助成について説明を受けた。

市民公募型パートナーシップ事業募集

京都市ごみ減量推進会議では、循環型社会の実現に寄与する市民団体の活動を応援しようと、助成事業を行う。9月末締切で10月中旬には審査結果が出される。初めての試みがごみ減量の弾みになることを期待したい。



活発に活動をくり広げる京都市ごみ減量めぐりん推進友の会

京都市ごみ減量めぐりん推進友の会（会長・山内寛）の動きが活発だ。京都市が公募し、1年間の講習を受けたごみ減量推進員経験者有志で組織される同会の発足は、1996年。11年の時を重ね、メンバーは115人に。今年度は5月27日やんちゃフェスタ（西京区総合運動公園）に参加したり、東山ふれあい広場（洛東中学校）、北区ふれあいまつり（船岡山公園）などに参加しごみ減量を訴えた。また、子どもたちへの環境教育に関わる出前学習にも出

向き、6月に東山小学校で使用済みてんぷら油パイオティール燃料化を紹介するなど環境学習を行った。また、今年から新たに連続講座を企画、8月京工コロジセンターにおいて、おからドーナツを揚げたててんぷら油を材料にせっけんづくり教室を開催した。今後の活動に期待したい。



東山ふれあい広場にて



小学校で出前講座

行政からのお知らせ

「生ごみ処理機」及び「生ごみコンポスト容器」の購入助成について ～家庭ごみの約4割を占める生ごみの減量化のために～

京都市では、生ごみを大幅に減少させることを目的に、有料指定袋導入に伴う財源を活用した「生ごみ処理機」、「生ごみコンポスト容器」の助成制度の募集をしています。

種類	助成額	上限
電動式生ごみ処理機 (注1)(注2)	助成額の2分の1 (100円以下切捨て)	上限35,000円
生ごみコンポスト容器	購入額の2分の1 (100円以下切捨て)	上限4,000円

(注1) ディスポーザー式を除く。(注2) (財)日本環境協会のエコマーク認定基準である1.5Wh/kg以下の機種に限る。

- 2 助成対象者/京都市内にお住まいの方(1世帯に1台、法人名義を除く)
- 3 申込期間/平成18年11月1日(水)～平成18年12月31日(日)
- 4 申込み方法

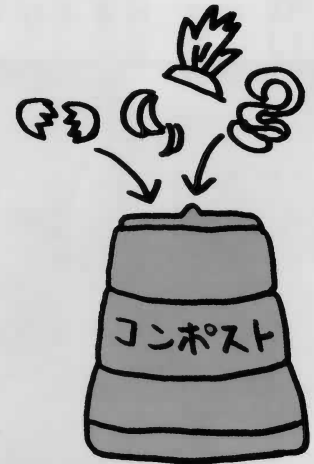
はがきに必要事項(希望対象(電動式生ごみ処理機又はコンポスト容器)、郵便番号、住所、氏名、電話番号)を記入のうえ、京都市環境局循環型社会推進部循環企画課まで郵送してください。各区役所・支所及び各まち美化事務所等に専用はがきを置いています。

応募者多数の場合は、月末ごとに抽選をし、書面にて通知します。

- 5 問い合わせ先

環境局循環型社会推進部循環企画課

TEL 075-222-3460 FAX 075-213-0453



防鳥用ネット貸与制度の実施について

京都市では、家庭から出るごみの収集場所の管理を支援する目的で、カラス等の鳥類によるごみ散乱被害を防止するため、防鳥用ネットの貸与制度を実施しております。

- 1 防鳥用ネットの種類

種類	サイズ(m)
大	3×4
小	2×3

- 2 対象

複数世帯(概ね5世帯以上)で、市が集積するごみ収集場所を利用している市民の方で、カラス等の鳥類によるごみの散乱被害を受けている方。

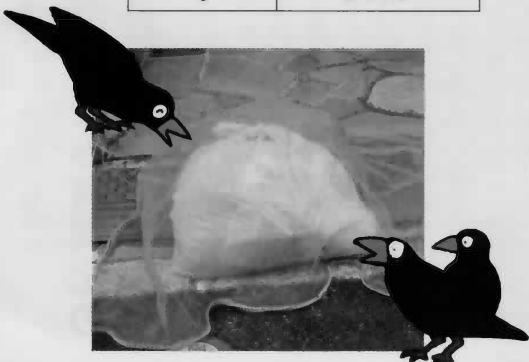
- 3 申込み方法

ごみ収集場所ごとに使用責任者を定め、各まち美化事務所のほか、市役所案内所、各区役所・支所等に置いてある申請書に必要事項を記入のうえ、当該収集場所を所管するまち美化事務所に申し込んでください。なお、申込み多数の場合は、ネットを貸与する時期が遅れることがあります。

- 4 問い合わせ先

環境局循環型社会推進部まち美化推進課

TEL 075-222-3461 FAX 075-222-3496



北海道イトムカ鉱業所

乾電池・蛍光管リサイクルの現場を見学

「どこへゆくのか？ どう処理されるのか？」近くの回収拠点に乾電池を持っていくたびに疑問に思っていた。「イトムカ」というところでリサイクルされると知ったのはいつだったか。乾電池の他、蛍光管など水銀を含有するものがイトムカに運ばれると聞いていた。いつかその現場に訪れたいという思いがようやくかなった。

◆水銀鉱山から、水銀廃棄物処理へ転換

いちめんに緑が広がる旭川空港に降り立ったのは、5月のことだった。新緑の木立や石狩川を眺めながら、車は東へ走る。大雪山系の一角に野村興産イトムカ鉱業所があった。イトムカとは、アイヌ語で光り輝く水という意味。野村興産は、もともと水銀鉱山だった地を水銀廃棄物の処理事業に転身させる。以来、水銀をはじめとする、廃棄物の適正な処理体制を整備し、操業を重ねてきた。総面積149ヘクタールを有する敷地内には、全国から運ばれてきた廃棄物をストックする倉庫から、最新鋭の処理施設、管理型最終処分場のみならず、環境分析部門まで備えられている。

◆水銀も高度な技術で資源に再生

日本で生産される蛍光管は、約3億6千万本、マンガン・アルカリ乾電池は約12億8千万個（いずれも05年のデータより）。それらのリサイクル拠点として稼働する、この工場のリサイクルの流れを紹介しよう。

◆廃乾電池から亜鉛や鉄が資源に

ここでは、一次電池に分類されるマンガン・アルカリ乾電池を受け入れている。これらの乾電池からは、主に亜鉛とマンガンと外装に用いられている鉄が抽出される。無水銀化が進んできたものの、古いもの、輸入されたものには水銀が含有されている。これも蛍光管と同様に再生される。鉄くずは、製鉄所に送られ、鉄筋など鉄製品になる。亜鉛は一部はそのまま亜鉛地金の原料となり、あるいは加工されソフトフェライト製品の原料として活用される。

◆廃蛍光管からはガラス、アルミ、水銀が資源に

環形、直管形、ボール形など、形も様々な蛍光管は外側のガラス管の中に40Wで約8ミリigramの水銀が用いられている。

中間処理され、すでに粉砕処理されたもの以外は、破碎されガラ



原料搬送コンベア



多段式焙焼炉は見上げるほど大きい



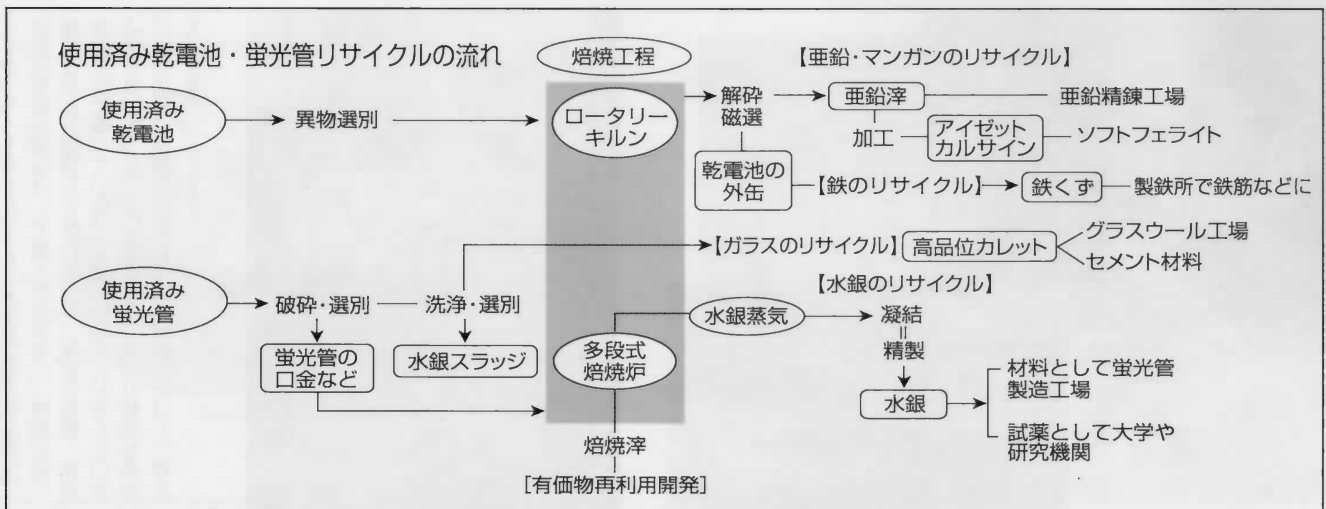
広大な面積の管理型最終処分場

と口金部分とが選別される。水銀は、高温で気化させた後、濾過・冷却され液体の水銀になり、精製を経て、金属水銀として再生。蛍光管の材料となり、また試薬として研究に使用される。ガラスは、カレットとなり、グラスウール工場へ運ばれ断熱材や一部セメント原料となる。口金のアルミはメーカーへ行く。

◆京都市でも蛍光管のリサイクルが始まった

野村興産イトムカ鉱業所見学後、京都市でも蛍光管リサイクルに取り組むとの情報を得た。京都市は早くから乾電池のリサイクルを実施してきた。これまで手つかずで家庭ごみとして生ごみなどと一緒に廃棄されてきた蛍光管がごみの有料化を機に再生されることになった。遠く北海道で資源に生まれ変わるのだ。

レポート：森田知都子（ふるしき研究会 代表）



会員探訪

日本紙業有限会社

所在地：〒612-8487京都市伏見区羽束師菱川町730-1
 TEL.075-921-2100 (代表) FAX: 075-921-2101
 URL <http://www.nihonshigyou.co.jp>
 代表取締役 中村正浩
 設立：1996年3月 (創業1986年8月)
 事業内容：製紙原料の仕入れ及び販売
 機密文書の処理・計量照明事業・再生紙の販売等
 許認可：廃棄物再生事業者登録 計量証明事業者登録
 KES環境マネジメントシステム認証取得

市民団体、事業者、各種事業者団体、専門家など、多彩な顔ぶれで構成される京都市ごみ減量推進会議。今回は、日本紙業有限会社の活動取材しました。

取材：森田知都子

日本紙業有限会社

Q 創業20年と聞きましたが？

A 弊社の前身は、古紙回収業です。創業以来古紙回収業を中心に、約十年間事業を重ねてきましたが、拠点づくりが急務となり、また循環型社会の到来を見据え、製容を拡充しリサイクル事業に本格的に参入しようと製紙原料問屋日本紙業を立ち上げました。以来、回収した古紙を選別し、圧縮・梱包処理をして製紙メーカーなどに納入する問屋として事業活動を重ねてきました。

Q 基本方針は？

A 弊社は、製紙原料問屋としての信頼を得るため、品質重視を基本方針に掲げ、品質管理維持体制を整えました。回収された古紙の中には、いわゆる禁忌品といわれる異物が混入しています。当社では、まず手選別で大きめに異物を除去します。さらにベルトコンベアーに載せるとき、もう一度人の目でチェックし、異物を取り去るという2段階のチェック体制で品質向上を図りました。おかげさまで製紙メーカーから厚い信頼を得ることができ、事業規模も拡大しました。清潔感のある制服・制帽を社員全員が身につけているのも、顧客様から信頼をいただくため。循環

出荷前の圧縮された紙



型社会に貢献しているという誇りを持って日々業務を推進しています。

古紙回収だけでなく、回収に伴って発生する紐や袋類のプラスチック製品もPPFで再生処理を行っており、捨てるものといえは、オフィスの茶殻ぐらいです。

Q 機密文書のリサイクルもさせているそうですね

A 創業当初から、オフィス古紙の状況にあった適切なリサイクルを提案してきました。もちろんコスト面への配慮も条件です。企業機密や個人情報に触れる文書ですので、施錠付の専用車で収集し、破砕または溶解どちらかで処理し、再生紙にリサイクルしています。廃棄処分・古紙再資源化証明書の発行もしています。

Q KESの認証取得についてお伺いします。

A 2004年12月に認証取得しました。同年6月ごろからコンサルタントの指導を受け、課題に取り組みました。ポイントとなったのは、回収車両にかかわる部分でした。燃費の効率化や、アイドリングストップばかりか、回収車両の運行ルートを変更したところ、無駄な走行がなくなり、二酸化炭素発生削減に大きく寄与することができました。

弊社の企業規模ではISO14001はハードルが高いのですが、その点KESは中小企業も手を伸ばせます。KESは横のつながりが強いのが特徴です。メンバー企業から回収への問い合わせをいただくことも多々あります。

Q このトイレトペーパーは？

A これは弊社のオリジナルです。利益目的ではなく、少しでも循環の形を具体的に示したいという思いから始めたものです。原料は、自社で回収した牛乳紙パックや家庭系古紙、回収にご協力いただいた京都府や京都市の小中学校や地域の方に無料で配布しています。年に数回の実施ですが循環型社会形成にささやかでも貢献できればと考えています。

Q 今後の活動への考えをお聞かせください。

A 弊社は、月間約1500トンの古紙を回収し再資源化を進めています。

ますが、ペットボトルやアルミ缶の再資源化が進む中、古紙の資源化率は決して高くありません。新聞古紙・雑誌はかなり浸透してきたものの、食品の箱類・封筒など家庭で眠っていたり、ごみに捨てられたりしているようです。もったいない話ですね。紙への意識を高めていただき、再資源化率の向上を目指したいと、考えています。



再生紙によるトイレトペーパーと中村勝也常務



紙類がベルトコンベアーに乗せられる



回収車にはロゴマークを付けて

「やっています。わたしの住む町で、ごみ減らし」

立ち上げから4カ月で 拠点数が11カ所に

上高野地域ごみ減量推進会議

にこやかな町内会長さんとの挨拶が交わされる中、油の回収が始まった。回収設置時間は10時からだが、出勤前の方も立ち寄れるようにと町内によっては7時半から開始している。

上高野地域ごみ減は発足してまだ4カ月。しかし拠点は15町内のうち11カ所もある。町内会では町内会長、さらにごみ減量委員なる役割も新たに設け、役割分担をし活動の強化を図る。自治会やPTAが中心となり、より多くの方からの協力が得られるように話し合いを重ねて拠点を設置した。そのかいあってか、設置場所への不満は届いていない。

左から2番目が鳥臨町内会長、
右端は高橋会長



「資源になるのなら」や「捨てるよりも回収のほうが楽」と揚げ物メニューの多い家庭の方には好評だ。「まだ、立ち上げて日が浅いため課題が出るのはこれから」と控えめに言われていた高橋会長だが、町内会長と連絡をまめにとり、常に地域の方とのコミュニケーションを図っている。今後も学習会や施設見学会を開き、さらに拠点も増やそうと意欲的に行動されている。上高野地域ごみ減は今まさに動き出したところだ。



- ◆会長：高橋 誠
- ◆発足：2006年3月
- ◆学区世帯数：2770世帯
- ◆使用済みてんぷら油の回収：
拠点は11カ所 回収日は第3金曜
空き缶、牛乳パックの回収はPTAなど

取材：田中真砂世

10年前からの回収を礎に 短期間で拠点を拡大

大宮地域ごみ減量推進会議（北区）

市の要請を受け、社会福祉協議会の環境部会が中心となって使用済みてんぷら油の回収を開始したのは昨年2月。同学区では、10年以上前から女性会のボランティアが独自に回収を行ってきたが、その活動を引き継ぎながらも、新たな枠組みで取り組みを始めたことになる。当初は44町中、世帯数の多い3町内でのみの回収だったが、現在は12町内で実施。回収を行う町が増えるかどうかは、町内会長さん次第だが、「なんでこちらは回収せんのか？」と町内の住民から声があがることにも期待している。環境部会の中出辰夫さんは、「自宅で油を処理するには費用も手間もかかるが、回収に出すのは無料で、かつ環境にやさしい」と、町内の集会などで回収を勧めてきた。

今後の目標は、回収を行う町を少しずつ増やしていくこと。また、こうした取り組みへの理解を促すため、京都市廃食用油燃料化施設（伏見区）などへの施設見学会を開くことにも意欲をのぞかせる。

その他の活動として、年に一度開催するフリーマーケットが挙げられる。鹿ノ下公園を会場とし、60ブースほどの出店スペースを設けるが、毎年大勢の人で賑わうという。捨てればごみになってしまう資源が、必要とする人の手に渡るフリーマーケットも、すでに地域に定着しているようで心強い。



- ◆会長：西田輝雄
- ◆発足：2005年（平成17年）2月
- ◆学区世帯数：約4700世帯
- ◆使用済みてんぷら油の回収：
拠点は13カ所：毎月第4土曜日、
午前10時～11時

取材：佐藤明子

「やっています。わたしの住む町で、ごみ減らし」

地域の組織力を活かし 3年で活動を軌道に乗せた

紫野学区地域ごみ減量推進会議（北区）



学区の保健協議会、社会福祉協議会、PTA、体育振興会、女性会の5団体が母体となり、活動を開始したのは2004年春のこと。使用済みてんぷら油の回収は、その年の秋から始まった。充分な準備期間を設け、その間に回覧板などで告知を続けた結果、初回の回収量は大変なものだったという。回収

拠点は、今年3月から5カ所になった。母体の団体がそれぞれ担当を受け持つ仕組みになっている。

取材当日は晴天が広がっていたが、猛暑のために油の持参者の足も鈍ったようだ。「回収量はいつもより少なめ」と言いながらも、この炎天下にきびきびと作業をこなしていく役員のみなさんの姿が印象的だった。

同会議では、使用済みてんぷら油の他に、古紙や空き缶、古着の回収も並行して行っている（毎月第2土曜日、午前9時～12時）。このコミュニティー回収を利用する人は多く、毎月の回収日には、回収場所に物品の山ができるほどの盛況ぶりだそう。また、年に一度、施設見学会を開催。今年9月には、大阪ガスのガス科学館（大阪府高石市）に見学に行く予定とのこと。これは役員同士で日頃の苦勞を労い合う小旅行でもあるという。

活動も今年で3年目に入り、「やっと軌道に乗ってきた」と会長の田邊照明さん。今後も地道に活動を継続していきたいとのことだ。



- ◆会長：田邊照明
- ◆発足：2004年（平成16年）10月
- ◆学区世帯数：3600世帯
- ◆使用済みてんぷら油の回収：
拠点は5カ所：毎月最終水曜日、午前10時～11時
- ◆古紙・空き缶・古着の回収：
拠点は1カ所
毎月第2土曜日、午前9時～12時

取材：佐藤明子

いずれはフリーマーケットを 夢を抱いて活動

納所地域ごみ減量推進会議（伏見区）

市民が回収したてんぷら油が車の燃料になる…。そんな情報を得てすぐ京都市に問い合わせ、「納所でも」と少年補導活動の仲間が中心となり立ち上げに向け動き始めた。地域活動の柱である自治連合会、女性会に声をかけ、準備会を開催したのが2004年12月。翌年4月発足と同時にてんぷら油の回収を始めた。拠点は小学校近くの納所会館前と納所東集会所前の2カ所。加えて大塚佑一副会長宅前には、ポリタンクを置き常時回収している。

最近、協力者も回収量も増えた。「ありがとう」と感謝の言葉を残す人もあり、その一言に元気づけられるという。しかし、「まだまだ少ない。新興住宅や団地住民の協力が課題」と、女性会会長の福島さん。てんぷら油回収への協力を求めるとき、「油を流すと、お宅の排水管が汚れますよ」など、身近なところから理解を求めたいと藤田会長は話す。

納所地区には淀競馬場があり、今後は、競馬場を利用したフリーマーケットなどを開きたいとの夢を持つ。少年補導、自治連合会、女性会と地域に根ざした団体で構成される納所地域ごみ減量推進会議。郷土愛に支えられた活動から新たな環境への芽が生まれそうな予感があった。



左前より 藤田忠輝会長、池田自治連合会会長、福島女性会会長/左後ろより 大塚佑一副会長、中道富貴子さん、大塚佳子さん



取材：森田知都子

- ◆会長：藤田忠輝
- ◆学区世帯数：2600世帯
- ◆発足：2005年（平成17年）4月
- ◆使用済みてんぷら油の回収：
毎月第3日曜、午前10時～11時
- ◆回収拠点は2カ所

京都市ごみ減量推進会議会報誌 ごみを減らそう！No.32

発行：京都市ごみ減量推進会議事務局 2006年（平成18年）10月発行
〒604-8571 京都市中京区寺町御池
京都市環境局 循環型社会推進部 循環企画課
TEL. 075-257-5053 FAX. 075-213-0453
京エコロジーセンター活動支援室 TEL&FAX 075-647-3444
E-mail gomigen@mbox.kyoto-inet.or.jp
URL <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/gomigen/index.html>

企画編集：京都市ごみ減量推進会議 普及啓発実行委員会（会報誌・ホームページ小委員会）
浅利 美鈴・植村 章弘・梅影 真生・大橋 正明・小野 貴志・佐藤 明子・
野村 直史・森田 知都子
事務局：西田 祐子・田中 真砂世

【入会のご案内】

京都市ごみ減量推進会議は、京都市のごみを減らし、環境を大切にしたいまちと暮らしの実現に寄与することを目的として、市民、事業者、行政により1996年11月に設立した団体です。パートナーシップで多彩な活動を展開中。京都市ごみ減量推進会議では、ともに活動する会員を募っています。

【会費】

市民（市民団体・消費者団体・環境団体等）	） 1口1千円 （年間1口以上）
専門家（学識経験者等）	
地域ごみ減量推進会議	
大学・マスメディア・事業者団体 企業等・行政	） 1口1千円 （年間2口以上）

詳細は、事務局へお問い合わせください。